

体型的な路線ナンバリングによる バス案内の総合的な改善と利活用の普及

菊池武史（弘南バス株式会社）
藤森良太（弘南バス株式会社）
大野悠貴（モビリティプロモーション／弘前大学）
高島亮太（株式会社玄）
今和泉隆行（株式会社地理人研究所）

背景・課題



お客様

難読地名が多い。時刻表や行き先方向幕の表記が各々で微妙に違う（地元民にはわかりやすい場合も）
目的のバスを見つけられない

弘南バス

説明が難しい。外国人観光客の訪問も増加。案内に対する不便さの解消が必要
GTFS も頑張って整備しているが、結局現地で乗りたいバスを見つけてもらえない・・・
全線路線図を作成したいが、路線が複雑すぎて表現しきれない

路線ナンバリング

コンセプト・・・「すべての番号に付与理由を持たせる」

番号で路線の“特性”を明確化

カテゴライズ

番号で路線が向かう方面がわかる

理由付け

2桁	地域間を結ぶ路線や、地域の 主となる路線
3桁	・市街地内で完結する 短距離 路線 ・2桁路線を 補完 する特性の路線 ・ 変則的な経路 を走る路線
1桁	「土手町循環バス」「城東環状バス」など、市民・来訪者を問わず多くの方が利用する弘南バスの 最も代表的な路線

経路が異なる路線を明確化

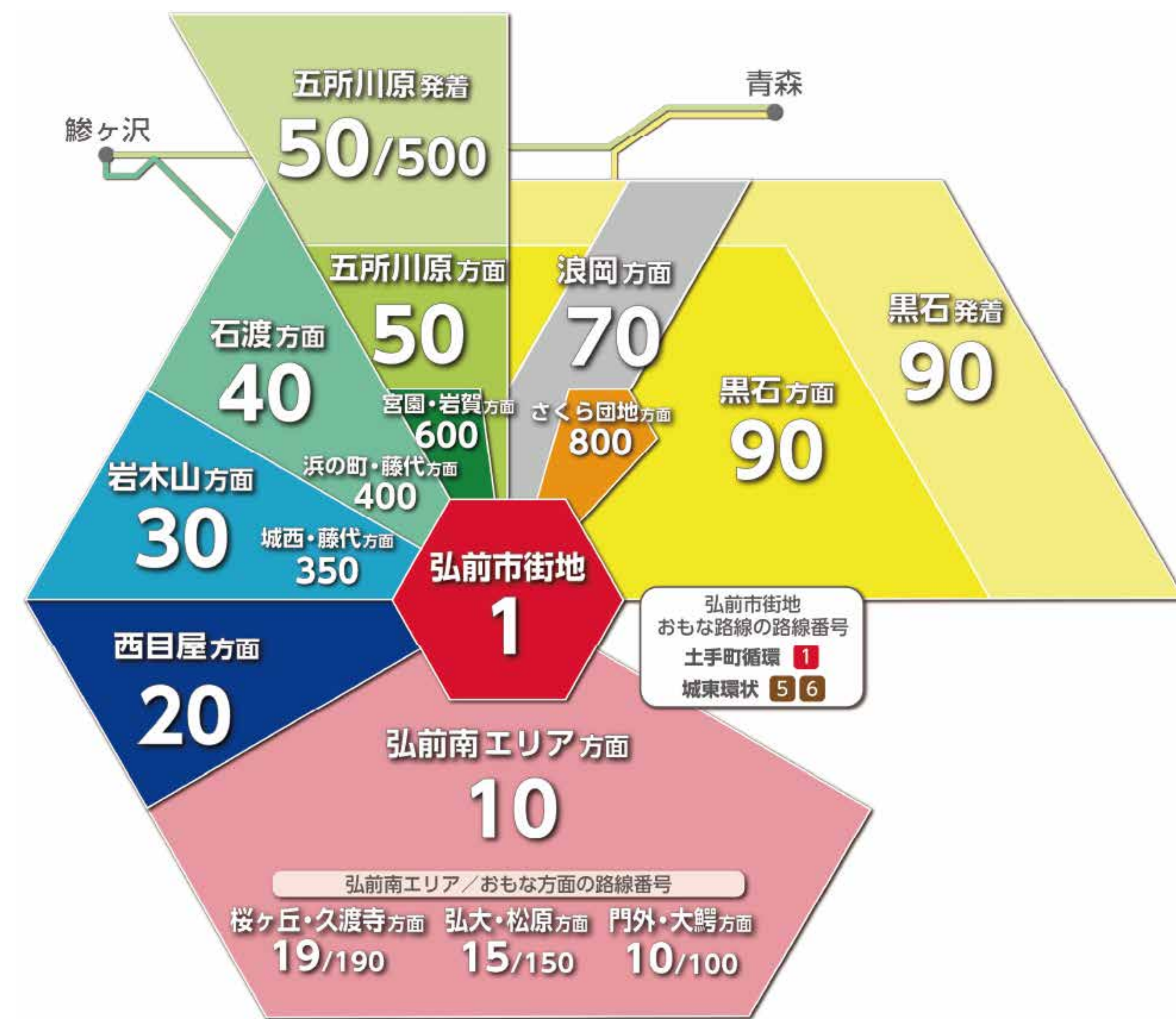
わかりやすく



・病院や学校等を経由するために通常経路から逸脱する路線にはアルファベットを付与して区別

行き先方向幕もリニューアルし、必要な路線には鉄道や新幹線の**ピクトグラム**を表示

例： 五所川原駅・原子経由
58 新青森駅 青森駅
矢田前



- ・番号や路線カラーは、**時刻表や路線図とも連動**
- ・覚えやすくなるよう、**語呂合わせ**も意識



利活用講座による普及活動の実施

- ・県内外からの**来訪者に対応されている観光業関係者や市民ボランティア等を対象**
- ・2025年2月26日（水）・27日（木）、弘前市・五所川原市で実施。計23名が参加
- ・前半は時刻表や路線図等の活用方法を、後半は市販の地図や地図アプリなどと組み合わせるノウハウを、**参加者自身で考えるワークも交えた内容**
- ・“バスや鉄道などに関する問い合わせ対応やご案内”という**身近な問題解決経験を通して、公共交通に関する知見や利活用のあり方のヒントを習得**してもらった

効果

路線番号で質問されることが増加

- ・「〇〇に行きたいが、どのバスに乗れば良いか？」という質問から、「●●番のバスに乗りたい」という内容に変化
- ・**お客様が具体的に乗りたいバスを理解**していることを示唆。当社職員や観光業関係者の案内も容易に（負担軽減）
- ・来訪者だけでなく、地元の方からも「利用の場面で判別しやすくなった」というお声をいただく

他分野関係者の理解度が向上、現場での活用

- ・利活用講座を通して、参加者の「**公共交通全体像の理解度**」「**公共交通についての問い合わせに対する自信**」が高まったことを確認
- ・紙の**時刻表や路線図の役割も正しく理解**していただいた。案内等の場面におけるトラブル回避にも寄与することを期待
- ・講座で配布した**教材を、現場で活用**しているという報告を複数いただいた（来訪者への新たな提案も期待）



※学校 MM の実施イメージ

今後に向けて

- ・路線ナンバリングや全線路線図をはじめ、新しくなった各種案内の周知が十分できていない。活用方法の普及とともに、今後も周知活動を継続
- ・お客様の路線の探し方の変化に合わせて、配布している時刻表の形態や記載内容も見直し
- ・当社が行っている学校 MM での活用
⇒2025年9月下旬に弘前市内の特別支援学校における「**バスの調べ方学習**」にて活用予定